特定医療法人中央会 介護老人保健施設 ローランド

ワーランドだより No.12

住所:尼崎市潮江2丁目1番10号

H P: http://www.chuoukai.or.jp

電話:06-6499-8500

編集:ローランド広報委員会

プリさしき展覧会が ご利用者様の作品を展示しました。 ご来場ありがとうございました。



お客様の声

- いろんな作品がとても上手にできていて楽しく見させて 頂きました。
- びっくりするほど素敵な作品が多く、多才な方がいらっしゃること に感動しました。作っている皆様の心が伝わってきます。
- 来年もまた見に来たいです。皆さん立派な作品でとてもよかったです。元気が出ました。
- とても丁寧に作られており、発表する場があってよかったと思います。
- ほのぼのします。展示物のテーマも様々で楽しませて頂きました。
- <u>皆さんがとても頑張って作品作りしているのだ目に</u> <u>心が温かくなりました。</u>
- ちさん素敵な作品ばかりでおどろきました。私など足元にもおよびません。



津本先生のひとりごと

『老衰死』に思う

No.59

老いて死が近づいてくると食べる量が少なくなってきます。食べなくなるから死ぬのではなくて、死を前に全身の臓器の機能が低下し『食べることを必要としなくなる』のです。そして死に至る、それが老衰死です。そんな時に点滴や経管栄養は必要でしょうか。点滴で無理に水分を入れると循環量が増え心臓に負担がかかり浮腫みがでて呼吸が苦しくなります。経管栄養も消化管に負担がかかります。自然な飢餓状態で(脳からエンドルフィンが出て)ようやく意識が朦朧となってきたのに、しっかりしろとたたき起こされないといけない、しかも夢から覚めても体は老いたまま何も変わりません。十分に生きたのだから死ぬ時ぐらい「お疲れ様。頑張りましたね。」と安らかに眠らせてほしい、何もせず…その選択はおかしいでしょうか。

家族の老いること、死ぬことから目を背けてはいけません。「そんなこと重々承知だ」と反論されるかもしれませんが実際にはどうでしょう?たとえば、生まれたばかりの赤ん坊が固形物を食べられないのを大変だと思う人はいるでしょうか。小さい口に食べ物を無理にほりこむ人はいないと思います。それは虐待です。実際にはかわいい仕草に目を細め、日々の成長を見守るでしょう。それが自然なことなのです。初めは何もできない赤ん坊がいろんな能力を獲得し日々成長していく過程は愛おしいものです。反対に人生の折り返し点を超えると老いに向かい、疾患を抱えることが多くなり、いろんな能力は徐々に失われていきます。『失う』とはつらいものです。しかしそれも自然の経緯なのです。喪失感が強すぎると現実の受け入れは困難になります。本人が老いを受け入れられないなら別ですが他人が受け入れないのはその人格を否定することになりますし、極めれば虐待になりかねないのです。赤ちゃんの成長を見守るのと同じように、老いも受け入れ見守っていくものだと理解し納得すべきです。死とは別れの時でもあります。人は何度も別れを経験し、それを乗り越えて成長していきます。しかし『別れ』は何度経験してもつらいことには変わりません。そのつらさも冷静な判断の邪魔になっているのでしょう。

看取りをしていて家人様から「何かできることはありませんか?」とよく尋ねられます。その時は「残念ながら医療は何もできません。でもそれ以上のことがあります。家族様がそばにいてあげることです。」と答えています。それは慰めや取り繕いからではなく私の実感です。

12月の予定

B	月	火	水	木	金	±
	1 盆踊り 3F	2 マッサージ1F	3 音楽療法 マッサージ1 F	4 マッサージ 1 F	5	6 桜寿会 1F
7	8 盆踊り 4F	9 マッサージ 1 F	10 音楽療法 マッサージ1 F	11 Iレクトーン ʒテ マッサージ1 F	12	13
14 喫茶ウイーク ~12/27 まで	15 盆踊り 3F	16 マッサージ 1F	17 マッサージ1F 通所クリスマス会	18 マッサージ1F エレクトーン 3F	19	20
21	22 盆踊り 4F ピ [®] アノ 1F	23 マッサージ1F	24 音楽療法 マッサージ1F	25 Iレクトーン 3F	26	27
28	29 盆踊り 3F	30 マッサージ 1 F	31 マッサージ 1 F			